

≫おじいちゃん、おばあちゃんへ…≪

子育てをする中で不安を抱いたり、戸惑ったりすることもあると思います。そんな時頼りになるのが子育ての大先輩であるおじいちゃん、おばあちゃんです。しかし、時代の変化とともに子育ての方法も大きく変化しています。おじいちゃん、おばあちゃん世代にとっては、もどかしく思ったりすることがあるかもしれません。今の子育て事情を知り、お父さん、お母さんと共通の認識を持つことで、みんなが安心して子育てができるきっかけになるように、情報を掲載しました。

～ 子育ての昔と今 ～



内容	昔	今
だっこ	「抱きぐせ」をつけると、赤ちゃんはだっこを求めて泣くようになる。	だっこは人との信頼感を育むなど心の成長に大切です。赤ちゃんが泣いているときは授乳やおむつ交換が必要かどうか確認してからやさしく抱いてあげましょう。
授乳	3時間おきに授乳するのがよい。	母乳の場合は、赤ちゃんがほしがったら授乳するようにしましょう。ミルクの場合は、ミルク缶に記載されている量や時間も参考にするようにしましょう。
卒乳	1歳を目安に「断乳」（親の判断で授乳をやめさせること）を完了させる。	現在では、赤ちゃんがおっぱいから自然に離れていく「卒乳」をすすめています。赤ちゃんのペースに合わせて授乳してあげましょう。ただし乳歯が生えそろそろ頃からむし歯のリスクも出てくるので1歳6か月頃までには卒乳しましょう。
離乳食の進め方	離乳食の準備として生後2か月から果汁をスプーンで与える。	離乳期に果汁をあたえることは薦められていません。だ液がいっぱいできるようになり、食べ物に興味を示すようになる6～8か月頃から開始するのが一般的になっています。
むし歯の予防	離乳食は大人が噛み砕いた食べ物を子どもに与える。	大人が一度口に入れた食べ物を与えるとその人が持っている虫歯菌がうつる可能性があるため箸やスプーンを共有しないなどの工夫が必要です。
おむつはずし	早めに外したほうがいい。	今ではトイレトレーニングといわれています。子どもの体調や発達をみながら、段階的に進めましょう。
うつぶせ寝	頭の形がよくなる。寝つきがよくなる。	乳幼児突然死症候群（SIDS）を含めた睡眠時の死亡のリスクから赤ちゃんを守るため、あおむけ寝を推奨しています。
食物アレルギー	食物アレルギーについて一般的に知られていなかった。	医師の検査・診断のもとでの治療の進め方を尊重し、みんなで気をつけていくようにしましょう。